

愛知県大府市のため池で捕獲されたガー科魚類

坂本博一*

Lepisosteid fish from the ponds of Obu City, Aichi Prefecture, central Japan

Hirokazu Sakamoto *

はじめに

ガー目 (Lepisosteiformes) 魚類は、通称ガーまたはガーパイクとも呼ばれ、北米からキューバにかけて1科2属7種が現生する (Nelson, 2006). 日本国内には、観賞魚として人気があることから7種全てがペットショップ等に広く流通している. 滋賀県では、1994年から、飼育個体の放逐とみられる個体が複数地点で確認され、2007年5月1日付けで、ガー科全種を県指定外来種に指定した.

愛知県内では、これまでに公式な捕獲報告はないが、釣り人などからの目撃情報が数多くあることから、かなりの個体数が放逐されている可能性がある.

この度、愛知県大府市内2か所の池 (神様池と時代池) で捕獲されたキューバンガー *Atractosteus tristoechus* ならびにフロリダガー *Lepisosteus platyrhincus* が、豊橋市自然史博物館に届けられたので報告する.

種の同定についてはWiley (2002) 及び黒岩 (1995) を参考にした. なお、これらの標本は豊橋市自然史博物館魚類資料 (TMNH-F) として登録・保管されている.

捕獲場所と捕獲個体

1. 神様池 (大府市宮内町2丁目)

農業用ため池. 面積11,000m², 水量15,000m³, 最深部は約3m. 大府市と地元自治会による「神様池地

区保全会」が管理している.

なお、ガー捕獲後の11月2日、大府市役所農政課によって、この池としては初めて、池干しによる魚類調査が行われた. コイ、フナ類約300個体をはじめ、外来種のブルーギル (約100個体)、オオクチバス (約200個体, 最大50cm)、ライギョ (10個体, 最大80cm)、ソウギョ、ミシシippアカミミガメ等の生息が確認されている. 新たなガーは、発見されなかった.

Atractosteus tristoechus (Bloch and Schneider, 1801)

キューバンガー

標本: TMNH-F1129 (第1図, 1a-c)

捕獲日: 2008年7月27日

全長680mm. 背鰭, 臀鰭, 尾鰭, 尾柄にのみ, 不規則な黒色模様がある. 上顎 (口蓋部) の大きな歯は2列で, 咬頭がやや膨らむ. さらに, 左第一鰓弓の鰓耙数が72であったことから本種と同定した.

2. 時代池 (大府市宮内町6丁目)

洪水調整用ため池. 面積約100m². 毎年水抜きが行われており, 周囲はフェンスで囲われている. 大府市が管理している.

Lepisosteus platyrhincus DeKay, 1842

フロリダガー

標本: TMNH-F1801 (第1図, 2a-c)

捕獲日: 2009年1月10日

2009年の水抜きの際に, 水抜きの管理者である浅

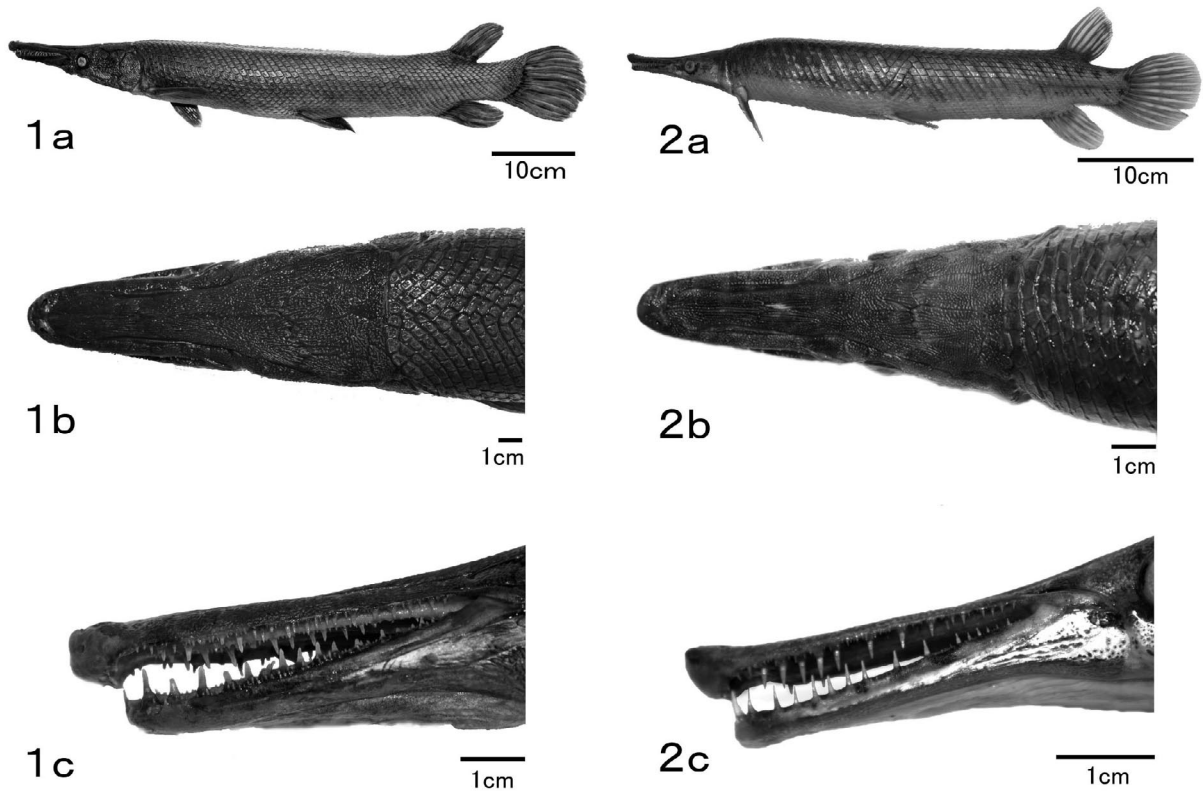
*豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History. 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

原稿受付 2009年12月6日. Manuscript received Dec. 6, 2009.

原稿受理 2009年12月20日. Manuscript accepted Dec. 20, 2009.

キーワード: ガー, キューバンガー, フロリダガー, 外来種, ため池, 大府市, 愛知県.

Key words: gars, *Atractosteus tristoechus*, *Lepisosteus platyrhincus*, alien species, pond, Obu City, Aichi Prefecture.



第1図. 大府市で捕獲されたガー.

1, *Atractosteus tristoechus* (1a, 全形, 1b, 吻上面, 1c, 吻左側面); 2, *Lepisosteus platyrhincus* (2a, 全形, 2b, 吻上面, 2c, 吻左側面).

田昭八氏が、ガーを発見、捕獲した。知人宅にあった中古浴槽（水深約30cm, 屋外設置）にしばらく保管されていたが、1月13日に死亡し、豊橋市自然史博物館に寄贈された。

全長494mm。頭部および背面にスポット状の暗色斑、体側にも不規則な模様。上顎の歯列が1列で、鰓膜下の腹面峡部表面に骨板がなく、左第一鰓弓の鰓耙数が27であったことから本種と同定した。なお、左体側のほぼ中央に、過去の傷が要因と思われる鱗配列の乱れが確認された。

考 察

今回、暖かい地域に分布するとされるフロリダガーが、1月に生体で捕獲され、低温に対する耐性が確認された。ガー科魚類は広温性であるため、愛知県下で、空気呼吸を阻害するほどの完全結氷がなければ、十分越冬が可能であり、県内で繁殖し、生態系を攪乱する恐れがあると考えられる。今後もガー類についての情報収

集ならびに放逐の可能性のある水域の監視に努める必要がある。

謝 辞

安城市の吉田 彰氏には、神様池のガー捕獲に関する情報提供ならびに資料入手に便宜を図っていただいた。大府市の浅田 進、浅田昭八、浅田典男各氏には、捕獲標本を寄贈いただくとともに、当時の状況についてご教示いただいた。記して感謝申し上げます。

引用文献

- 黒岩宜仁, 1995. ガーの分類と飼育. 内山りゅう・内山壮子 (編), 古代魚総覧, ピーシーズ, 東京, 148-158.
- Nelson, J. S., 2006. *Fishes of the world*. John Wiley & Sons, Inc., New Jersey, 96-98.
- Wiley, E.O., 2002. Lepisosteidae. Gars. Kent E. Carpenter (ed.) *The living marine resources of the Western Central Atlantic*,

*Vol. 2 : Bony fishes part 1 (Acipenseridae to
Grammatidae)*. FAO, Rome, 672-678.